[ライディングスポーツ]
2019年2月号（毎月24日発売）12月22日発売

RIDING SPORT

RIDERS' SPIRIT FROM [illegible] SCENES

2019
2
February
NUMBER
433

2大特別付録
A2サイズ大型ポスター
【その1】マルク・マルケス
2018MotoGP 2年連続3冠獲得
【その2】中須賀克行
8回目のJSB1000タイトル獲得

Interview #01
中上貴晶インタビュー
さらに上を目指して。

MotoGP
2018最終戦バレンシア
ダニ・ペドロサ ラストラン
KTM初表彰台獲得
ロッシ2戦連続転倒

Interview #02
中須賀克行 8回目のタイトル獲得
チャンピオンインタビュー
岩戸亮介／岡本裕生／中島元気

Interview #03
MotoGPキーパーソン
エルベ・ポンシャラル／アルベルト・プーチ

最終戦バレンシアで6位入賞

中上貴晶 有終の美

ヘレステストでもトップタイム！

インディペンデント最上位
中上貴晶が最終戦で快挙

写真／竹内秀信　文／遠藤智

トップ3フィニッシュのチーム関係者でごった返す中、LCRルーチョ・チェッキネロ監督が人混みをかき分けて中上の元に駆けつけた

ウエットレースとなった最終戦バレンシアGPで、中上貴晶が今季最高の走りを見せた。

断続的に激しくなる雨の中で転倒者が続出、レースは13周で赤旗中断となった。その時点で6位だった中上は、11周で再開されたピット2でも好位置をキープ。自己ベストの6位。インディペンデントチームのトップでフィニッシュし、MotoGPクラスで初めてパルクフェルメに入った。

「レースを終えたときに6位だったのは知っていたが、インディペンデントチームのトップでフィニッシュしたことは知らなかった。それでパルクフェルメを通り過ぎてしまい、みんなに遅う遅うと言われてパルクフェルメに戻るというドタバタだった。正直、いい意味で自分でもビックリの6位。シーズン最後のレースでみんなの期待に応えることができてうれしい」と喜びを爆発させた。

フリー走行、予選では、ウエットコンディションに苦戦し、思うような走りができなかった。決勝でもその状態は変わらなかったが、「Moto3とMoto2で転倒者が多かったので、とにかく、集中して最後まで走ろうと思った。何度も転びそうになったし、何人も転んでいるのが視界に入った。ほんと、厳しいレースだったが、苦手なウエットコンディションでいいレースができた」とシーズン最後のレースで今季の目標の一つだったシングルフィニッシュを達成した。

「来年は、自分にとって大きなターニングポイントになる。MotoGPライダーとしてキャリアが続くかどうかの大事なシーズン。今年は思うような結果を残せなかったが、来年は自分の力をしっかり出したい。今日はサバイバルレースだったが、自己ベストだったので素直に喜びたい。シーズンを通して頑張ってくれたチームスタッフの期待に応えられたことが何よりもうれしい」と、MotoGPクラスに上がり初のパルクフェルメでのスタッフとの記念撮影に、笑顔が弾けた。

今年は目標だったルーキー・オブ・ザ・イヤーを獲得できずも、今季ルーキーのベストリザルトを刻み、速さをアピール。2年目となる2019年シーズンの活躍に期待が膨らんだ。

ヘレステストでリザルトトップに名を連ねた中上貴晶
最高の締めくくり 年内最後のテストでトップタイム

写真＝LCRホンダ　文＝添野勉

中上貴晶が、周囲も驚くベストタイムでシーズンを締めくくった。

11月下旬、二日間で行なわれたヘレステスト最終日。その最後の走行でタイムアタックした中上は、1分37秒945の自己ベストを刻み、MotoGPクラスで初のトップタイムをマークした。

最高の形でシーズンを締めくくった中上は、「今日の目標は1分37秒台に入れることだった。それを達成できた。今日のテストで37秒台に入ったのは僕とマルク（マルケス）だけ。すごくうれしい」と3年連続5回目のチャンピオンを抑えてのトップタイムにコメントも弾んだ。

わずか十日前の最終戦バレンシアGPでは今季ベストの6位でフィニッシュ。その二日後に行われたバレンシアテストでは、チームメイトのカル・クロッチロウが今季乗っていたワークスマシン18年型RC213Vに乗って総合8番手。「パワーがあるだけじゃなくてすごく乗りやすかった。車体の安定性も高くてブレーキングで攻められた」と快調にラップを刻んだ。

それから1週間のインターバルを置いて行なわれたヘレステスト。バレンシアで好調だった中上は、得意とするヘレスでさらに走りが冴えを増し、25台が参加したテストで初日3番手につけると、二日目にはついに総合トップに浮上した。

好調の要因は18年型ワークスマシンのライバフォーマンスにあるが、加えて今年で引退するダニ・ペドロサのチーフメカニックを務めたジャコモ・ゲイドッティのコンビネーションのよさもある。

ゲイドッティは芳賀紀行のチーフを務めたこともあり、日本人をよく知るメカニック。「いろいろなセットアップにトライしたが、すべてが順調だった。最後まで気持ちよく乗れた」と言葉どおりの結果だった。

最高峰クラスで日本人選手が優勝したのは、04年の日本GPの玉田誠、表彰台は12年のバレンシアGPで中須賀克行が2位になったのが最後である。それ以来の優勝と表彰台獲得に期待が膨らんだ。

「来年に向けていい形で終われた。来年はいいシーズンにしたい」と来季に向けて弾みをつけることに成功した中上貴晶。19シーズンは本番で開幕をあっと驚かせる意気込みだ。

Test Jerez Standings

順位	ゼッケン	ライダー	マシン	チーム	タイム
1	30	中上 貴晶	ホンダ	LCRホンダ・イデミツ	1'37.945
2	9	ダニロ・ペトルッチ	ドゥカティ	ドゥカティチーム	1'37.968
3	93	マルク・マルケス	ホンダ	レプソル・ホンダチーム	1'37.970
4	12	マーベリック・ビニャーレス	ヤマハ	ヤマハファクトリーレーシング	1'38.066
5	99	ホルヘ・ロレンソ	ホンダ	レプソル・ホンダチーム	1'38.105
6	21	フランコ・モルビデリ	ヤマハ	ペトロナス・ヤマハSRT	1'38.118
7	4	アンドレア・ドビジオーゾ	ドゥカティ	ドゥカティチーム	1'38.185
8	43	ジャック・ミラー	ドゥカティ	アルマ・ブラマックレーシング	1'38.207
9	63	フランチェスコ・バニャーヤ	ドゥカティ	アルマ・ブラマックレーシング	1'38.333
10	42	アレックス・リンス	スズキ	チームスズキ・エクスター	1'38.522
11	46	バレンティーノ・ロッシ	ヤマハ	ヤマハファクトリーレーシング	1'38.596
12	20	ファビオ・クアルタラーロ	ヤマハ	ペトロナス・ヤマハSRT	1'38.761
13	19	アルバロ・バウティスタ	ドゥカティ	ドゥカティ・テストチーム	1'38.830
14	53	ティト・ラバット	ドゥカティ	リアル・アビンティアレーシング	1'38.876
15	36	ホアン・ミル	スズキ	チームスズキ・エクスター	1'38.931
16	29	アンドレア・イアンノーネ	アプリリア	アプリリアレーシング・チームグレシーニ	1'39.008
17	44	ポル・エスパロガロ	KTM	レッドブルKTMファクトリーレーシング	1'39.144
18	17	カレル・アブラハム	ドゥカティ	リアル・アビンティアレーシング	1'39.744
19	5	ヨハン・ザルコ	KTM	レッドブルKTMファクトリーレーシング	1'39.864
20	41	アレイシ・エスパロガロ	アプリリア	アプリリアレーシング・チームグレシーニ	1'40.156
21	38	ブラッドリー・スミス	アプリリア	アプリリアレーシング・チームグレシーニ	1'40.174
22	50	シルバン・ギュントーリ	スズキ	スズキ・テストチーム	1'40.498
23	55	ハフィズ・シャリン	KTM	KTMテック3レーシング	1'40.520
24	88	ミゲール・オリベイラ	KTM	KTMテック3レーシング	1'40.577
25	15	マテオ・バイオッコ	アプリリア	アプリリアレーシング・テストチーム	1'41.907

中上貴晶

スペシャルインタビュー

最終戦の結果はサプライズだった
ワークスマシン獲得のためにもっと上を！

TAKAAKI NAKAGAMI

日本人ライダー4年ぶりの最高峰クラス参戦を果たした中上貴晶
1シーズンを戦って気付いた弱点
トップ6でゴールした最終戦バレンシアGP
さらには2019年テストでのマシンの感触などなど
余すところなく多項目について語る
そこにはライダーとして大きく成長した姿が浮き彫りになる

写真／竹内秀信、RIDINGSPORT　文／RIDINGSPORT

新シーズンに向けて

4年ぶりに誕生した世界最高クラス日本人ライダー。中上貴晶は新しい挑戦の年を、最終戦でシングルフィニッシュ、テストでトップタイムと最高の形で締めくくった。

オフシーズンに入り帰国した中上。頭の中はすでに新シーズンのことでいっぱいだった。

「来シーズンについてはホンダにいろいろとお願いをしています。契約金の交渉はしていないです。18年の結果がよくなかったから、ネタがないです」

確かにルーキー・オブ・ザ・イヤーは獲得できなかった。成績は尻上がり、最終戦ではトップ6でフィニッシュしたことで狂喜乱舞したファンは多かっただろう。しかしランキングは20位、ルーキー3番手にとどまった。ルーキー勢で2桁ポイントをもらえる上位6位以内でゴールできたのは、中上ただ一人なのにもかかわらず。

「来季は重要な年だから、トレーニング内容を変えたい。バイクに乗る時間を今以上に増やして、シーズンオフもシーズン中もオフロードバイクでトレーニングをしたいんです。スペインはオフロードバイクでトレーニングできるコースが多いから、その整った環境を利用できるようにCRF450の提供をお願いしました」

ヨーロッパ用にCRF450を、日本用にNSF100を出してもらった。

「いろいろな人の情報を聞くと、ダニ（ペドロサ）もNSF100でわざと雨の中を走ったりしているんです。（アルベルトブーチ（HRCチームマネージャー）さんからもいろいろ聞いて、いいと思うものは取り入れようとしています。トップライダーたちのトレーニング環境や方法を聞くと、圧倒的にバイクに乗っている時間が多い。特にマルク（マルケス）は、時間さえあれば乗っているんです」

気付いた“足りていない部分”

18年シーズン、予選ではかのルーキー勢に負けてはいなかった。ルーキー・オブ・ザ・イヤーを獲得したフランコ・モルビデリのQ2進出回数は2回。ハフィス・シャリンは1回。対する中上は4回のQ2進出を果たしている。

「スピードは自分の方が速い。それなのに結果を残せていないっていうのは、自分のスキルの中で何か足りていないところがあるということ。まずはトレーニングが足りてないと気付いたんです」

だからこそ、トレーニングマシンをホンダに頼んだのだ。

「モルビデリはVR46アカデミー（バレンティーノ・ロッシが発足したイタリア人若手育成プログラム）に所属しているから、若手とバトルしながらトレーニングしている。それがバトルの強さ、バトルに対する慣れにつながる。それに気付いたときに、自分にはないなと…。トレーニングはしているけれど、あえてバトルのトレーニングは取り入れていません。『これだ！』って思いました」

MotoGPアカデミー、スペイン選手権、世界GP125、Moto2と、これまでにいくつも混戦クラスを経験してきた。それでもバトルが足りていないと感じた。

「バトルしているときのライバルの動き、自分の動きを考える力を含めて、その力が劣っていると思うんです。相手との距離感、先を読む力が劣っていると思います」

それに気付くことができた。

「それが分かったのは大きなポイントじゃないかなと。だからトレーニングを変えようと思ったんです」

速さでは負けていないのに、ルーキー・オブ・ザ・イヤーは獲得できなかった。何よりも悔しかった。

「じゃあ何が足りないのかって、いろいろと考えたときに見つけました。そこを克服して磨いていけばいいところまで行けるんじゃないかと思います」

うれしいサプライズ

最終戦バレンシアGPは大雨に見舞われ、途中で赤旗中断を挟んで2ヒートで争われた。

「赤旗前は6番手を走っているときに赤旗が出ました。周回数がレース成立の3分の2に達しているかどうか微妙で、すぐにはなかりませんでした。いい結果を出していたから、『このまま終わってほしい』という気持ちもありました。でも、目の前に（ヨハン）ザルコがいたから『このままだとインディペンデントの2位になっちゃう…。あぁ、1位にはなれなかったか…』と、リスタートを望む気持ちもあった。ザルコとの差を詰めていたから、リスタートしたら行けるんじゃないかっていう思いがありました」

ピットに戻り、レース成立周回数に達していなかったことを知った。

「3周くらい前には赤旗を出してほしかったなって思うくらい雨量がすごくて、ストレートでもアクセルを半分しか空けられないくらいひどかったから、なかなかコンディションは回復しませんでした」

ウォームに入る前から悪天候の予報が出されていた。

「雨には少し苦手意識があります。でも、今季はあまりウエットレースがなかったから、苦手意識克服のための走り込みをしたくてもチャンスはなかったんです。それで、ウイーク前に気持ちを切り替えて『ウエットコンディションのトレーニングウイークにしよう』と決めました」

フリープラクティスはセッティングも替えず、ひたすら周回を重ねた。限界値を探りながら走り込んだ。それがサバイバルレースとなった決勝で生き残た勝因だった。

「いつもどおりに『雨はいやだな』って思いながらピットに何度も入ってバイクをいじり倒していたら、転倒組に入っていたかもしれないです。最終戦で自信になりました」

赤旗前に目の前を走っていたザルコは、元々ウエットコンディションが得意とされるライダーだ。

月刊 中上貴晶

ウエットコンディションとなった最終戦バレンシアで、目標の一つだったシングルフィニッシュを達成
さらに2019年に向けて行なわれたヘレステストでは初めてのトップタイムをマークした
2018年をいい形で締めくくったタカは、これから少しの冬休みを過ごし、新たなシーズンを迎える準備に入る

写真／竹内秀信、Honda

最終戦バレンシアGPを間に感じたのは、本当にあっという間の一年だったなあということでした。新しいチャレンジ、そして、世界最高のライダーたちが集う最高峰クラス。その一員としてシーズンを戦ってきたことを光栄に思うと同時に、本当に多くのことを学べた一年でした。バレンシアGPでは、これまで学んできたことをしっかりレースに生かそうという気持ちでした。一年の集大成となるレースにしたいと願っていました。

結果はシーズンベストの6位。断続的に激しく雨が降り注ぐウエットレース。あまりの雨量に赤旗中断となる厳しいコンディションでしたが、最後までしっかり走り抜くことができました。今季ベストリザルトというだけではなく、インディペンデントでもトップフィニッシュ。シングルフィニッシュという目標を達成しただけでなく、思いがけない結果に、すごくうれしい気持ちになりました。

自分にとっては、いい意味でのびっくりザルトでした。Moto3、Moto2と転例の多いレースになっていたので、最後まで集中して走ろうと思っていました。MotoGPクラスも思っていた以上に転倒者が多く、2度のスタートとなりました。集中することができました。

6位でチェッカーを受けましたが、自分がインディペンデントのトップだとは知りませんでした。そのため、パルクフェルメを通り過ぎるというドタバタでしたが（笑）、チームはすごく喜んでくれました。クルーチーフのラモンと一緒にレースを戦うのが今回で最後だったので、いい思出しができたし、何もかもが来年につながるレースになりました。

最終戦を終えて二日後には、19年シーズンに向けてテストが始まりました。このテストから、今年カルが乗っていた18年型RC213Vになりました。どんなバイクだろうと楽しみでしたが、予想以上にパワーがあり、乗りやすいバイクでした。加速、立ち上がりのよさはもちろんのこと、ブレーキングの安定性もよく、リズムある走りができました。その結果、二日間総合で8番手。続くヘレステストでは、初日3番手、二日目トップタイムでシーズンを終えることができました。

ワークスチームは、エンジンテストなど、それぞれ多くのメニューを消化していました。全員がアタックしていないこともあるますが、初めて経験するトップタイム。しかも、二日目は、1分37秒台に入れたのが僕とマルクだけだったし、大きな自信になりました。5度のタイトルを獲得したマルク、3度チャンピオンになったホルヘ、そしてチームメイトはMotoGPで3勝を挙げているカル。来年、自分にとっては、全員が大きな目標になります。この3人に追いつくよう、全力を尽くそうと思っています。

来年は自分にとって大きなターニングポイント。MotoGPライダーとして続けていけるかどうかの正念場のシーズンになります。レースウイークだけではなく、普段の生活でも、これまで以上にバイク漬けの一年にするつもりで頑張ります。

本当にあっという間の一年でした。満足できるリザルトではありませんでしたが、それだけ充実した時間だったのだろうと思います。チーム、HRC、ホンダ、出光をはじめとするスポンサーの皆さん、そして、ファンの皆さんに心から感謝します。来年は、皆さんの期待にこたえられるように頑張りますので、引き続き、応援よろしくお願いします。

PROFILE 中上貴晶
1992年2月9日生まれ。千葉県出身。06年全日本GP125タイトル獲得。07年スペイン選手権参戦。08年、09年WGP125フル参戦。10年全日本ST600参戦。11年全日本J-GP2タイトル獲得。12年から世界GPに復帰し、Moto2を戦う。13年は2位4回、3位1回でランキング8位。14年にイデミツホンダチームアジアに移籍。16年オランダGPで初優勝、ランキング6位。17年イギリスGPで2勝目。18年から最高峰MotoGPクラスに挑戦。

MotoGP第19戦バレンシア レース2 14Laps

1	4	アンドレア・ドビジオーゾ	Ducati Team	24'03.408
2	42	アレックス・リンス	Team SUZUKI ECSTAR	24'06.158
3	44	ポル・エスパロガロ	Red Bull KTM Factory Racing	24'10.814
4	51	ミケーレ・ピロ	Ducati Team	24'12.055
5	26	ダニ・ペドロサ	Repsol Honda Team	24'16.759
6	**30**	**中上貴晶**	**LCR Honda IDEMITSU**	**24'35.696**
7	5	ヨハン・ザルコ	Monster Yamaha Tech 3	24'36.214
8	38	ブラドリー・スミス	Red Bull KTM Factory Racing	24'36.519
9	6	ステファン・ブラドル	LCR Honda CASTROL	24'39.784
10	55	ハフィス・シャリン	Monster Yamaha Tech 3	24'40.606
11	45	スコット・レディング	Aprilia Racing Team Gresini	24'47.734
12	99	ホルヘ・ロレンゾ	Ducati Team	24'49.554
13	46	バレンティーノ・ロッシ	Movistar Yamaha MotoGP	24'56.217
14	17	カレル・アブラハム	Angel Nieto Team	25'14.036
15	81	ジョルディ・トレス	Reale Avintia Racing	25'20.147
以上完走				
	19	アルバロ・バウティスタ	Angel Nieto Team	-7laps
	25	マーベリック・ビニャーレス	Movistar Yamaha MotoGP	DNS
	9	ダニロ・ペトルッチ	Alma Pramac Racing	DNS
	93	マルク・マルケス	Repsol Honda Team	DNS
	29	アンドレア・イアンノーネ	Team SUZUKI ECSTAR	DNS
	41	アレイシ・エスパロガロ	Aprilia Racing Team Gresini	DNS
	43	ジャック・ミラー	Alma Pramac Racing	DNS
	21	フランコ・モルビデリ	EG 0,0 Marc VDS	DNS
	12	トム・ルティ	EG 0,0 Marc VDS	DNS

■予選1位 マーベリック・ビニャーレス 1'31.312
■決勝ファステスト アンドレア・ドビジオーゾ 1'41.863
■中上貴晶 予選14位 1'31.928／決勝ベスト 1'44.223

11月20日-21日バレンシアテスト 二日間合計

1	12	マーベリック・ビニャーレス	Yamaha Factory Racing	1'30.757
2	4	アンドレア・ドビジオーゾ	Ducati Team	1'30.890
3	93	マルク・マルケス	Repsol Honda Team	1'30.911
4	43	ジャック・ミラー	Alma Pramac Racing	1'30.939
5	9	ダニロ・ペトルッチ	Ducati Team	1'30.959
6	21	フランコ・モルビデリ	Petronas Yamaha SRT	1'30.974
7	42	アレックス・リンス	Team SUZUKI ECSTAR	1'31.254
8	**30**	**中上貴晶**	**LCR Honda IDEMITSU**	**1'31.304**
9	46	バレンティーノ・ロッシ	Yamaha Factory Racing	1'31.371
10	41	アレイシ・エスパロガロ	Aprilia Racing Team Gresini	1'31.400
11	63	フランチェスコ・バニャーヤ	Alma Pramac Racing	1'31.405
12	99	ホルヘ・ロレンゾ	Repsol Honda Team	1'31.584
13	44	ポル・エスパロガロ	Red Bull KTM Factory Racing	1'31.628
14	36	ホアン・ミル	Team SUZUKI ECSTAR	1'31.714
15	53	ティト・ラバット	Reale Avintia Racing	1'31.940
16	6	ステファン・ブラドル	LCR Honda	1'32.015
17	20	ファビオ・クアルタラーロ	Petronas Yamaha SRT	1'32.091
18	29	アンドレア・イアンノーネ	Aprilia Racing Team Gresini	1'32.124
19	51	ミケーレ・ピロ	Ducati Team	1'32.220
20	94	ジョナス・フォルガー	Yamaha Test Team	1'32.265
21	5	ヨハン・ザルコ	Red Bull KTM Factory Racing	1'32.509
22	17	カレル・アブラハム	Reale Avintia Racing	1'32.906
23	55	ハフィス・シャリン	KTM Tech 3 Racing	1'33.008
24	38	ブラドリー・スミス	Aprilia Racing Test Team	1'33.028
25	88	ミゲール・オリベイラ	KTM Tech 3 Racing	1'33.798

11月28日-29日ヘレステスト 二日間合計

1	**30**	**中上貴晶**	**LCR Honda IDEMITSU**	**1'37.945**
2	9	ダニロ・ペトルッチ	Ducati Team	1'37.968
3	93	マルク・マルケス	Repsol Honda Team	1'37.970
4	12	マーベリック・ビニャーレス	Yamaha Factory Racing	1'38.066
5	99	ホルヘ・ロレンゾ	Repsol Honda Team	1'38.105
6	21	フランコ・モルビデリ	Petronas Yamaha SRT	1'38.118
7	4	アンドレア・ドビジオーゾ	Ducati Team	1'38.185
8	43	ジャック・ミラー	Alma Pramac Racing	1'38.207
9	63	フランチェスコ・バニャーヤ	Alma Pramac Racing	1'38.333
10	42	アレックス・リンス	Team SUZUKI ECSTAR	1'38.522
11	46	バレンティーノ・ロッシ	Yamaha Factory Racing	1'38.596
12	20	ファビオ・クアルタラーロ	Petronas Yamaha SRT	1'38.761
13	19	アルバロ・バウティスタ	Ducati Test Team	1'38.830
14	53	ティト・ラバット	Reale Avintia Racing	1'38.876
15	36	ホアン・ミル	Team SUZUKI ECSTAR	1'38.931
16	29	アンドレア・イアンノーネ	Aprilia Racing Team Gresini	1'39.008
17	44	ポル・エスパロガロ	Red Bull KTM Factory Racing	1'39.144
18	17	カレル・アブラハム	Reale Avintia Racing	1'39.744
19	5	ヨハン・ザルコ	Red Bull KTM Factory Racing	1'39.864
20	41	アレイシ・エスパロガロ	Aprilia Racing Team Gresini	1'40.156
21	38	ブラドリー・スミス	Aprilia Racing Team Gresini	1'40.174
22	50	シルバン・ギュントーリ	Suzuki Test Team	1'40.498
23	55	ハフィス・シャリン	KTM Tech 3 Racing	1'40.520
24	88	ミゲール・オリベイラ	KTM Tech 3 Racing	1'40.577
25	15	マッテオ・バイオッコ	Aprilia Racing Test Team	1'41.907